

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名: 浜中町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 浜中町地域内フィーダー系統確保維持計画

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
浜中町	<p>運行系統名:霧多布湿原線系統1 運行区間:霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内駅 運行回数:607.5回 運賃:100円～200円</p> <p>運行系統名:霧多布湿原線系統2 運行区間:霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内駅 運行回数:850.5回 運賃:100円～200円</p> <p>運行系統名:茶内線 運行区間:茶内駅～茶内福島外～茶内駅 運行回数:239回 運賃:100円～300円</p> <p>運行系統名:浜中線 運行区間:霧多布温泉ゆうゆ～浜中地区外～浜中駅 運行回数:145回 運賃:100円～500円 【車両減価償却費等国庫補助】</p>	霧多布湿原線は、「浜中町公共交通マップ/時刻表・運賃表」の配布や他公共交通機関との接続を継続したことで、町営バスの利用方法や利便性について利用者の理解が進み、町民や観光客の利用者増となった。茶内線・浜中線は、人口の自然減などの要因により利用者減となったと考えられる。	A 概ね計画どおり実施された。	A 霧多布湿原線については、利用者数目標値3,450人に対して5,412人の実績があり、予約運行型の茶内線・浜中線については利用者数目標値950人に対して1,079人の実績があった。いずれも、「浜中町公共交通マップ/時刻表・運賃表」の配布や他公共交通機関との接続を継続したことで、町営バスの利用方法や利便性について利用者の理解が進んだことが目標値を上回った理由と考えられる。 町内交通運行に係る本町の経費負担については、バス運行事業者への委託料が28,195千円となっており、令和元年度の負担経費28,960千円に対して97.3%となっている。物価高騰や人件費の増加の影響が見られるなか本町負担額の改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「浜中町公共交通マップ/時刻表・運賃表」の改善と内容の周知を継続し、利用促進に努める。 ・JR北海道や根室交通と連携を深め、確実な接続を図るなど、町内外への移動における利便性の向上について検討していく。 ・町民からの要望は、可能な範囲で対応し、観光客からの意見等についても参考としていく。 ・破損又は老朽化しているバス停留所については、更新を進めていく。